

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2016.12) 平成28年度:21-22.

女子看護学生に対する夫立ち会い出産の情報源の違いによる認識・希望の比較～女性に対する情報提供のあり方の検討～

榆木 遥子, 花尻 美沙希, 和田 薫奈

女子看護学生に対する 夫立ち会い出産の情報源の違いによる認識・希望の比較 ～女性に対する情報提供のあり方の検討～

学生氏名 楡木遥子 花尻美沙希 和田薫奈
(指導：巻島愛 大上育子)

緒言

夫立ち会い出産は夫婦関係の構築や父親としての役割を果たす上で意義あるものといえる¹⁾。夫立ち会い出産の割合は近年増加しており、関心の高い分野であると考えられる。夫立ち会い出産という言葉はほとんどの大学生が認識し、言葉を知ったきっかけの多くがマスメディア(新聞・テレビ・一般雑誌)であったとの報告がある²⁾。看護学生の3年生は母性に関する講義や実習を終えることで、1・2年生に比べ、分娩について具体的に考えられている³⁾ことや、実習後に夫立ち会い出産の希望が増加しているとの報告がある⁴⁾。また、夫立ち会い出産を行わない理由には妻の意見も大きく反映されていることが明らかになった⁵⁾。そこで、本研究は、情報源の違いにより、夫立ち会い出産についての認識・希望が異なると考えた。母性に関する講義や実習を経験し、将来子供を産む立場となる女子看護学生を対象に、これらを比較することで、女性に対する情報提供の在り方について検討することを目的とした。

用語の定義

- 1)夫立ち会い出産:分娩室もしくはLDRに入って、夫が分娩の付き添いを行うこと。児娩出時に夫が付き添っていれば、その前後の時間は問わないこととする。
- 2)マスメディア:インターネット、雑誌、新聞、本、テレビ。
- 3)マスメディア以外:親の話、出産経験のある親戚の話、講義、母性看護学実習。

方法

研究対象: A大学看護学科の、女子学生(1~4年生)を対象とする。

データ収集方法: 無記名自記式質問紙を配布し、回収箱に投函して頂いた。調査期間は、平成28年8月22日~9月7日である。

調査内容: 学年、夫立ち会い出産についての情報源、情報の内容、夫立ち会い出産に対する認識(4段階リッカート法を用いた。)(夫立ち会い出産自体のイメージ9項目、妻が考える夫の役割7項目、夫からどう思われるか8項目)、夫立ち会い出産の希望の有無。質問項目は先行研究の質問紙を参考にオリジナルの物を作成した。

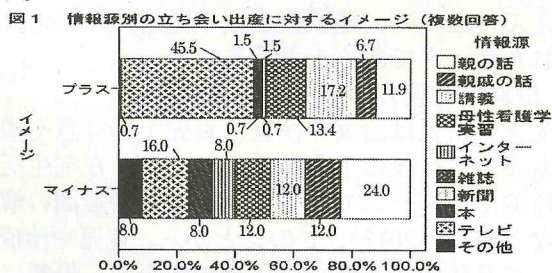
データ分析方法: データを単純集計し、対象者をマスメディアのみから情報を得ている群(以下、マスメディア群)、マスメディア・マスメディア以外からの両方から情報を得ている群(以下、両方群)、マスメディア以外のみから情報を得ている群(以下、マスメディア以外群)に分類した。SPSS.version22を用いてクロス集計し、一部ロジスティック回帰分析し、5%水準(p<0.05)を有意差ありとした。

倫理的配慮: 研究の目的と方法、参加の自由意志、不参加でも不利益を被らないこと、匿名性の厳守、研究結果の公表は卒業研究発表会のみとすること、質問紙の記

入をもって本研究への同意とみなすこと、データの管理及び研究終了後のデータ破棄について文書及び口頭で説明した。

結果

1. **対象者の基本属性:** 本調査は対象者218名に配布し172名から回収を得た(回収率78.9%)。有効回答数は156名(有効回答率90.7%)。内訳は1年生44名、2年生31名、3年生39名、4年生42名であった。
2. **情報のイメージ:** マスメディアからの情報はプラスイメージが62%、マイナスイメージが7%、どちらにも属さないイメージが31%であった。マスメディア以外からの情報はプラスイメージが59%、マイナスイメージが17%、どちらにも属さないイメージが24%であった。
3. **情報源別に見た夫立ち会い出産のイメージ:** 図1に示す。

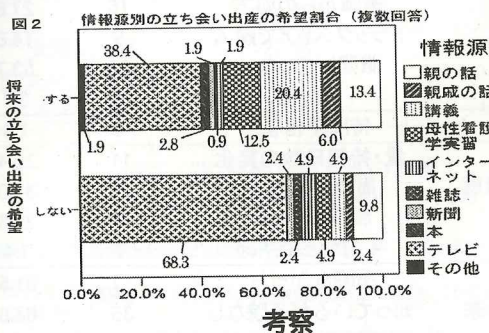


4. **情報源の区分別割合:** マスメディア以外群43名、マスメディア群70名、両方群43名であった。学年別にみると1年生はマスメディア以外群18%、マスメディア群69%、両方群14%であった。2年生は、マスメディア以外群26%、マスメディア群68%、両方群6%であった。3年生はマスメディア以外群21%、マスメディア群33%、両方群46%であった。4年生はマスメディア以外群45%、マスメディア群14%、両方群40%であった。
5. **情報源の区分による認識の得点:** 得点が高いほど、夫立ち会い出産に対して良い認識を持っている。認識の得点(96点満点)は、両方群74.58点と最も高く、次いでマスメディア以外群74.21点であった。一方、マスメディア群70.46点と最も得点が低かった。
6. **夫立ち会い出産の希望による認識の平均得点:** 「夫立ち会い出産自体のイメージ(36点満点)」は、希望する人が28.75点、希望しない人が24.29点であった。また、「妻が考える夫の役割(28点満点)」は、希望する人が22.73点、希望しない人が18.48点であった。「夫からどう思われるか(32点満点)」は、希望する人が23.71点、希望しない人が20.42点であった。総合得点(96点満点)は、希望する人が75.19点、希望しない人が63.19点であった。またロジスティック回帰分析より、「妻が考える夫の役割」の得点は、有意差が得られ、夫の役割得点が1点増えると、希望する人は1.6倍になるという結果が見られた。

7. 各学年における夫立ち会い出産の希望の割合：「希望する」と答えた人は、1年生 25.2%、2年生 14.3%、3年生 29.4%、4年生 31.1%であり、4年生が最も多く、次いで3年生が多かった。また、「希望しない」と答えた人は、1年生 38.7%、2年生 38.7%、3年生 12.9%、4年生 12.9%であり、1・2年生が多かった。夫立ち会い出産の希望について、学年のみを因子としてロジスティック回帰分析した結果、1年生を基準とすると3・4年生で有意差が得られ、夫立ち会い出産を希望する人が3年生では4.7倍、4年生では3.7倍多かった。

8. 情報源の区分による夫立ち会い出産の希望：マスメディア群では、希望する人が63.6%、希望しない人が36.4%であった。マスメディア以外群では、希望する人が88.1%、希望しない人が11.9%であった。両方群では、希望する人が95.2%、希望しない人が4.8%であった。また、ロジスティック回帰分析より、マスメディア群を基準としたとき、マスメディア以外群で有意差が得られ、希望する人が5.4倍多かった。両方群では、有意差はなかったが(p=0.6)、マスメディア群に比べて希望する人が6.3倍多かった。

9. 情報源別に見た夫立ち会い出産の希望の割合：図2に示す。



考察

1. 情報源の違いによる認識：マスメディア以外群や両方群では、マスメディア群に比べて「夫立ち会い出産自体のイメージ」「妻が考える夫の役割」「夫からどう思われているか」のいずれの認識得点も高かった。また認識得点が高いほど、夫立ち会い出産を希望する人が多いという結果が得られた。中でもマスメディア以外群や両方群は「妻が考える夫の役割」の得点が最も高かったことから、夫立ち会い出産において夫が役に立つと捉える人が多く、夫立ち会い出産の希望に繋がると考えられる。

2. 情報源の違いによる将来の夫立ち会い出産の希望：マスメディア以外群、両方群では「マイナスイメージおよびプラスイメージのどちらもあり、夫立ち会い出産を希望する人が多い」という仮説を立てた。結果を見ると、マイナス・プラスイメージのどちらもあり、夫立ち会い出産を希望する人の割合が高かった。学年で見ると、3・4年生は母性看護学の講義や実習を終えているため、マスメディア以外群や両方群が多く、夫立ち会い出産を希望する人も多かった。先行研究では、母性看護学実習での出産立ち会いの有無に関わらず、夫立ち会い出産の利点や欠点を学んだうえで夫立ち会い出産を肯定的に捉えている学生が多く、将来の夫立ち会い出産への意識の変化に繋がっていると報告されている⁴⁾。本研究でも、マスメディア以外群や両方群では夫立ち会い出産の利点や欠点を理解したうえで肯定的に捉えていることがわか

った。このことから、母性看護学の講義で利点や欠点を学んだり、実習で夫立ち会い出産の様子を見ることで、将来の自分の夫立ち会い出産と結び付けやすかったのではないかと考えられる。またマスメディア・マスメディア以外の両方から多面的に情報を得ることで、夫立ち会い出産を考えるきっかけとなるのではないかと考える。

マスメディア群では、「夫立ち会い出産に対するマイナスイメージが先行し、夫立ち会い出産を希望しない人が多い」という仮説を立てた。夫立ち会い出産を希望する人の割合は、マスメディア以外群、両方群と比較すると低かった。しかし、マスメディアからの情報はプラスイメージが多かった。夫立ち会い出産に対してプラスイメージを持っている人のうちテレビから情報を得ている人が4割以上であったが、夫立ち会い出産を希望しない人は7割近くであった。このことから、テレビ等の媒体でプラスイメージの情報を得ても、それだけでは、十分に理解することや、将来の自分の立ち会い出産と結びつけることが難しいと考えられる。

3. 女性に対する情報提供の示唆：身近なマスメディアからの情報だけではなく、マスメディア以外からも情報提供をすることが望ましいと考える。看護学生は講義や実習を受けることができるが、看護学生以外の女性はマスメディア以外からの情報を得る機会が少ない。そこで、母親学級など、母親を支援する目的があり、他の人の視点や考え方を参考にできるメリットがあるので、マスメディア以外の介入を積極的に行い、女性が自身の立ち会い出産と結び付けていけるよう説明することが必要だと考える。本研究では、マスメディア以外群や両方群では夫立ち会い出産の利点や欠点を理解したうえで肯定的に捉えていることがわかった。そのため、情報提供の際には、夫立ち会い出産の利点だけでなく、欠点も伝えることで、夫立ち会い出産を肯定的に捉えることができると考える。また、夫立ち会い出産の希望の有無は、夫立ち会い出産時における夫の役割の認識が影響することがわかった。そのため、女性に対して、夫の役割について説明を行うことで、夫立ち会い出産について考えるきっかけとなるのではないかと考える。医療者側からの一方的な知識提供ではなく、妊婦同士や医療者とコミュニケーションをとりながら、夫立ち会い出産について理解してもらい、女性の自己決定を支援する必要があると考える。

謝辞

本研究においてアンケート調査にご協力いただいた学生の皆様、ならびに教員の皆様へ心より感謝申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 田島朝信, 和田京子(1995) 夫立ち会い分娩がもたらす精神的影響, 36, 母性衛生, 131-140.
- 2) 若月史織, 小寺さおり, 石田貞代(2012) 大学生の夫立ち会い出産の希望に関連する要因の検討, 11, 山梨県母性衛生学会誌, 9-15.
- 3) 古川亮子, 井上正美, 村山ヒサエ他(1998) 看護学生における夫立ち会い分娩の意識調査, 4, 新潟県立看護短期大学紀要, 165-172.
- 4) 小野寺幸子, 大野友子, 長岡由紀子(2009) 母性看護学実習における「夫立ち会い分娩」の意義について, 50(5), 母性衛生, 219.
- 5) 半藤保, 五十嵐祥子, 新井繁他(2005) 夫立ち会い分娩に対する分娩者側と医療者側の意識, 5, 新潟青陵大学紀要, 49-55.
- 6) 木村有希子, 松井つかさ, 今中桂子(2005) 新しい Know-How を学ぶこれからの出産準備教室 妊婦に寄り添う「参加型」クラスのすすめかた PERINATALCARE, 309, 株式会社メディア出版 10, 16